

2

「にぎわいエコまち計画」においてめざす方向

2.1 宇部市における問題点と対応すべき課題

本市では、本格的な人口減少時代の到来により、以下に示す問題点がさらに顕在化するおそれがある。

現状から予測される問題点

人口減少・高齢化が加速する

市全体で人口密度が低下する

高齢者などを中心に、日常生活に支障をきたす

公共交通がますます衰退し、自動車依存型のまちから脱却できなくなる

商業機能の郊外化が進み、ますます中心市街地が衰退する

財政状況の悪化に伴い、これまでどおりのサービスが提供できなくなる

化石燃料由来のエネルギー消費量が削減できない

中心市街地に宇部市の顔としての魅力がなくなる

今後の対応すべき課題

コミュニティの維持が困難

病院、学校などの維持が困難

都市経営コストの増大

サービス機能の低下

住宅などの未利用ストックの増加

市民の健康上の課題

公共交通の衰退

環境負荷の増大

拠点機能の衰退

不動産価値の下落

エネルギーの効率的な利用や省エネ化

市街地のみどりの不足

ヒートアイランド現象

環境・景観の悪化

宇部市が維持・発展していくためには

にぎわいのある、環境にやさしい(エコ)まちづくりが必要
「にぎわいエコまちづくり」

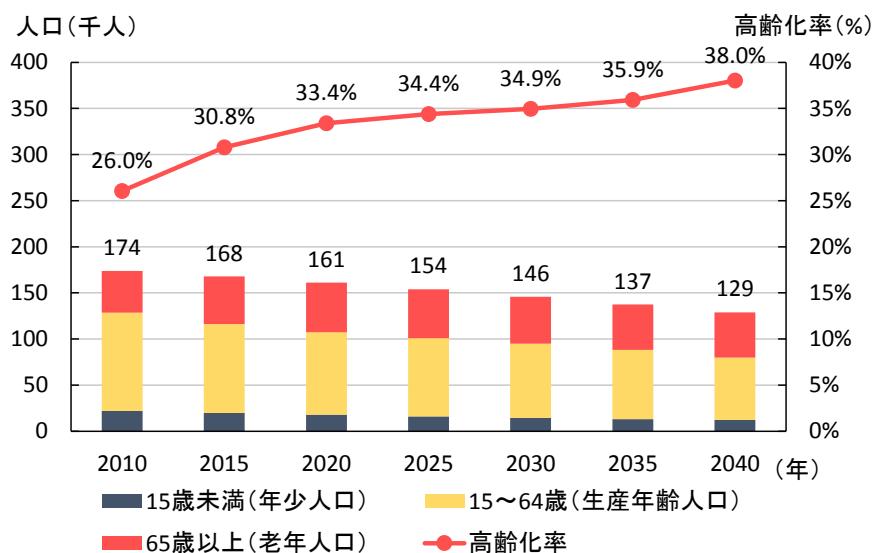
1) 人口減少・高齢化が加速する

(1) 将来人口推移

- 今後人口が減少し、高齢化が加速するなかで、将来的な推計人口が増加するのは黒石校区のみとなっている

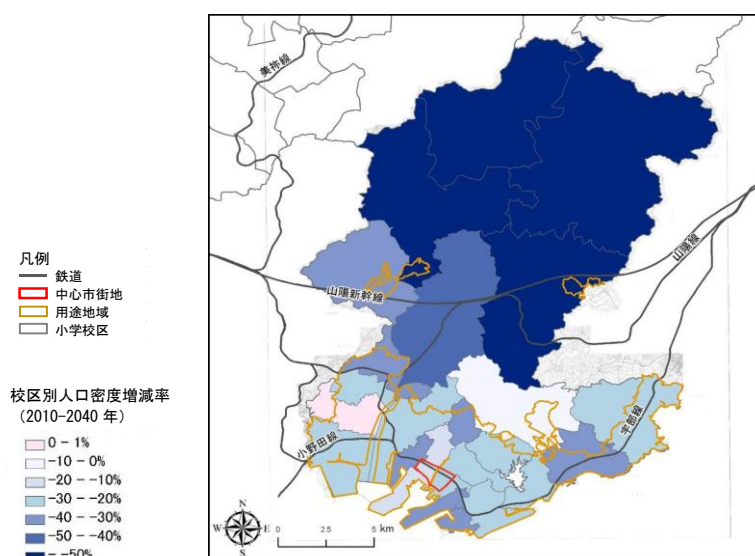
本市では、今後急速に人口減少・高齢化が進行することが見込まれており、校区別に2040年までの将来人口増減率をみると、特に市北部を中心にその傾向が顕著に現れると予測される。

また、将来的に人口が増加するのは黒石校区のみとなっている。



出典：国立社会保障・人口問題研究所

図 2-1 宇部市の将来人口推移



※国立社会保障・人口問題研究所データ、宇部市統計書をもとに推計

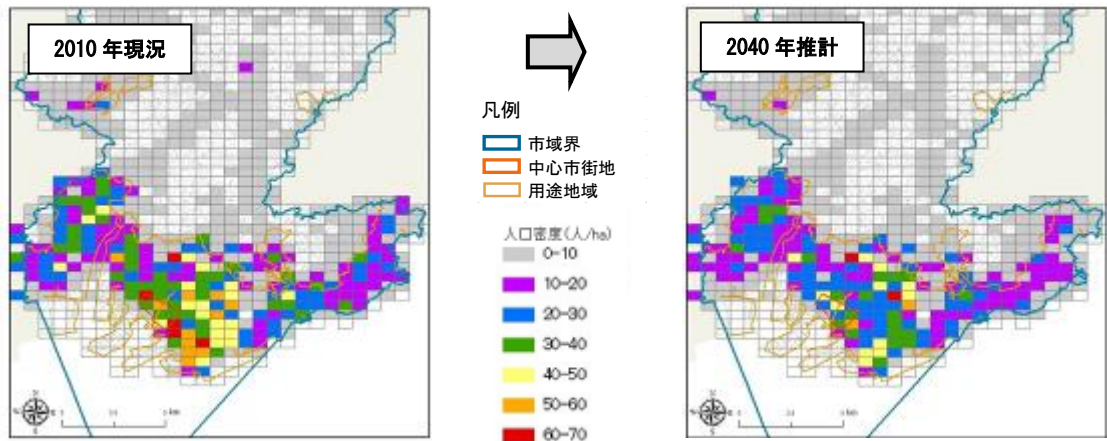
図 2-2 コーホート要因法による校区別将来人口増減率(2010年-2040年)

2) 市全体で人口密度が低下する

(1) 現況及び将来の人口密度

- 人口密度の将来推計結果では、中心市街地周辺の低密度化が進むことが予測される

本市の人口密度の将来予測結果をみると、このまま何も対策を講じなかった場合には、市全体の人口密度が低下し、特に中心市街地の周辺において顕著に現れると予測される。



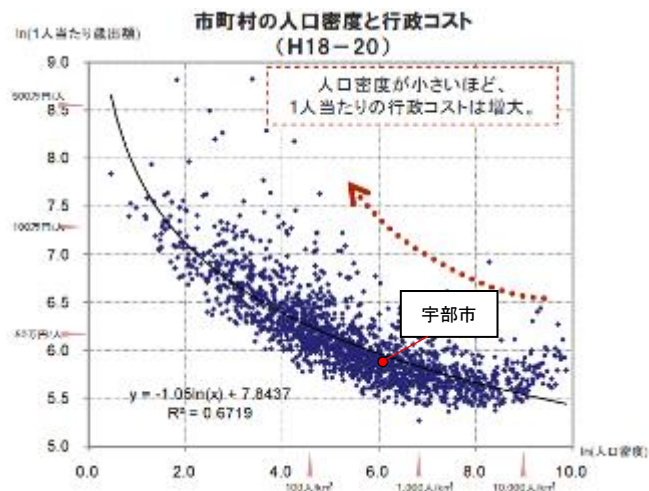
※国立社会保障・人口問題研究所データ、宇部市統計書をもとに推計

図 2-3 人口密度の現況と将来予測

(2) 人口密度と行政コスト

- 人口密度が低下すると行政コストが増加する傾向があることから、今後さらなるコスト増が懸念されている

「国土の長期展望」中間とりまとめ（国土交通省）（2011年）によれば、自治体の人口規模や密度が低下すると1人当たりの行政コストが増加する傾向が確認されており、本市においても、将来人口密度が低下すると行政コストの増大へとつながることが予測される。



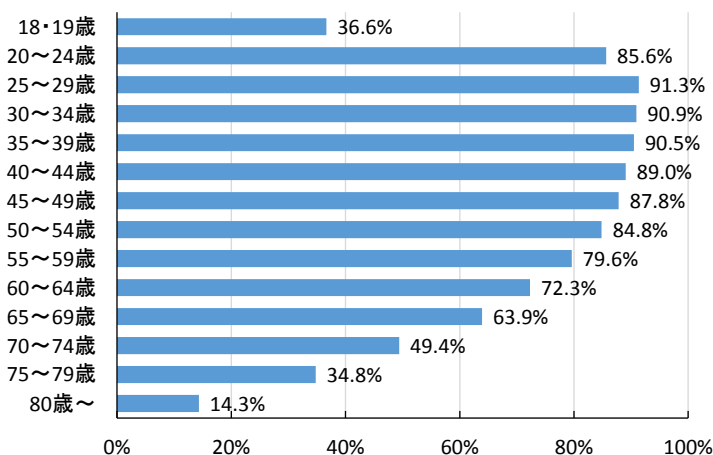
出典:「国土の長期展望」中間とりまとめ(国土交通省)(2011年)

図 2-4 市町村の人口密度と行政コスト

3) 高齢者などを中心に、日常生活に支障をきたす

- 現状では、80 歳以上の大半(85%以上)が自ら自動車を運転せず、移動手段として公共交通を選択する可能性が高い

2012 年の年齢構成別の自動車免許保有率から、65 歳～69 歳では約 60%が免許を保有しているものの、加齢に伴い免許を保有していない率は増加し、80 歳以上では約 85%となっている。



出典:宇部市の公共交通の現状報告書(2012 年)

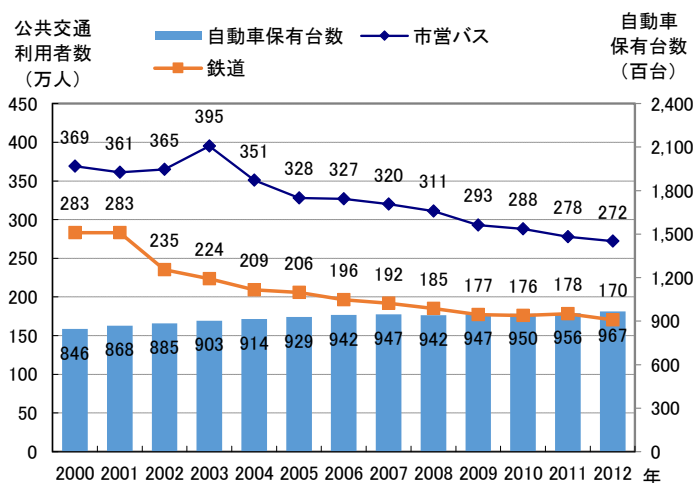
図 2-5 年齢構成別普通自動車免許保有率

4) 公共交通がますます衰退し、自動車依存型のまちから脱却できなくなる

- 自動車保有台数が年々増加し続けている一方、市営バス利用者数は 2003 年以降、鉄道利用者数は 2001 年以降減少し続けている

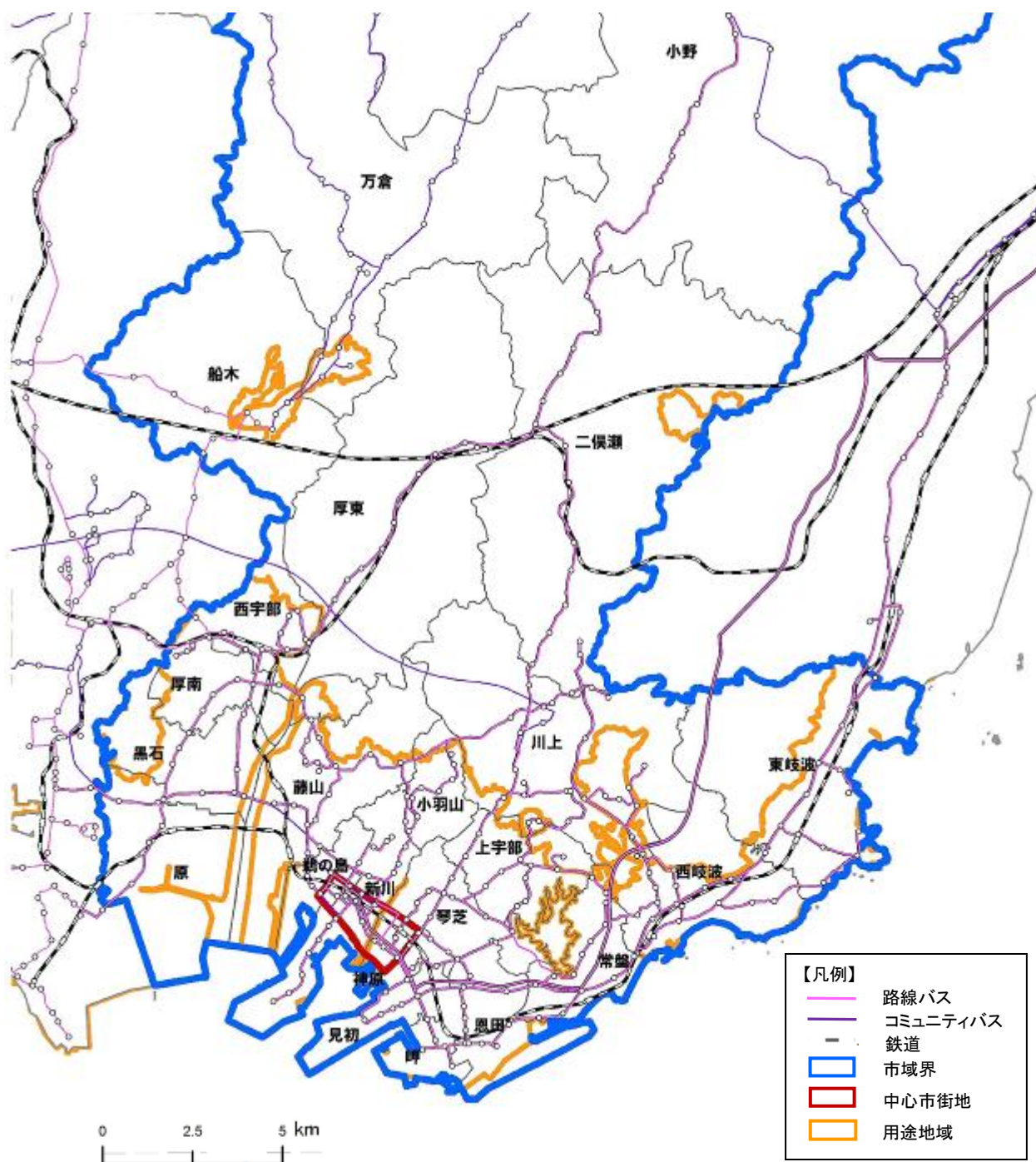
「宇部市統計書」によると、自動車保有台数は、2000 年の 846 百台から増加し続け、2012 年には 967 百台となっている。一方、市営バス利用者数は 2003 年の 395 万人から減少し続け、2012 年には 272 万人となっている。鉄道についても、2001 年の 283 万人から年々利用者数が減少し、2012 年には 170 万人となっている。

公共交通と比較すると利便性が高い自家用車を利用することにより、公共交通の利用者の減少が運行本数の減少につながる等、ますます公共交通が不便になる悪循環が懸念される。



出典:宇部市統計書
山口県統計年鑑

図 2-6 自動車保有台数と公共交通利用者数の推移



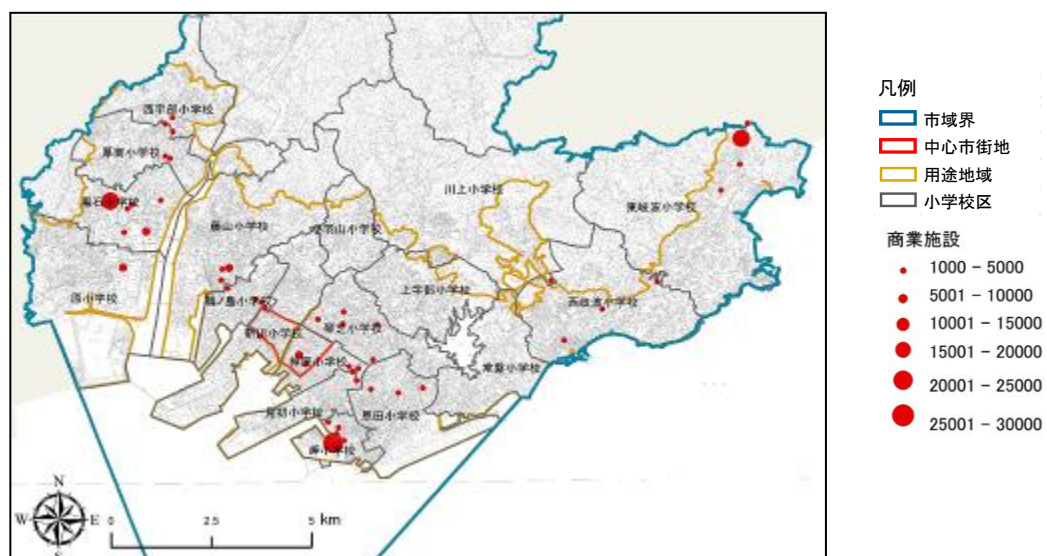
※路線バス、コミュニティバスは2012年時点の運行情報

図 2-7 現況の公共交通ネットワーク

5) 商業機能の郊外化が進み、ますます中心市街地が衰退する

- 中心市街地内にも大型商業施設(売り場面積が 5,000m² 以上)が立地しているものの、大型商業施設は中心市街地外への立地が目立つ状況にある
- ゆめタウン宇部、フジグラン宇部等の大型商業施設の開業以降、中心市街地での買い物客が減少している

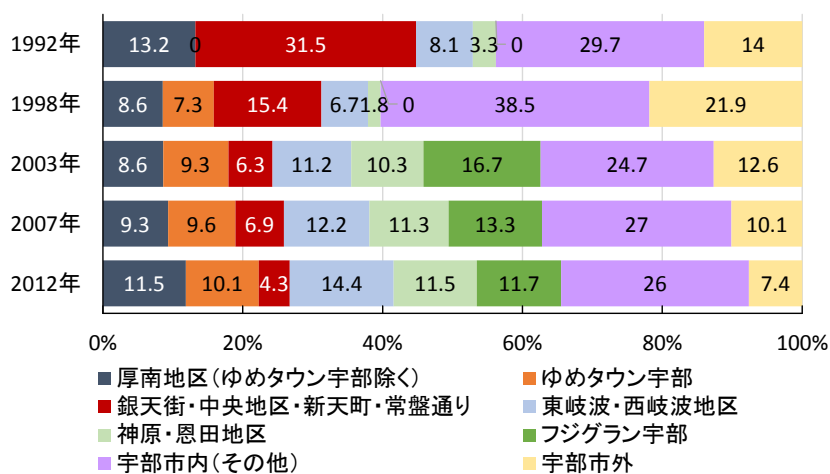
売り場面積 10,000 m²を超えるような大型商業施設は、全て中心市街地外に立地している。



出典: 全国大型小売店総覧(2014 年版)

図 2-8 大型商業施設の立地状況

ゆめタウン宇部(1996 年)及びフジグラン宇部(1999 年)の開業に伴い、中心市街地の銀天街・中央地区・新天町・常盤通りの商店街を利用する人の割合が大幅に減少している。



出典: 山口県買物動向調査(2012 年)

図 2-9 宇部市内における主な買い物先

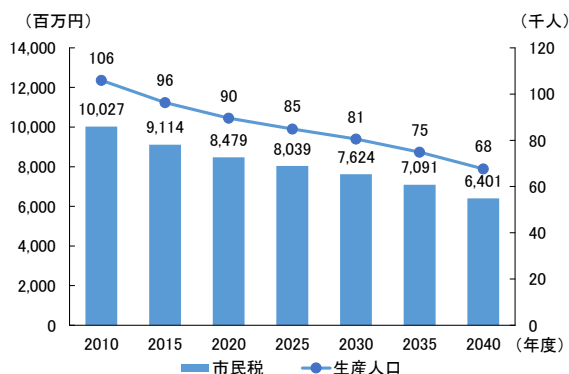
6) 財政状況の悪化に伴い、これまでどおりの公共サービスが提供できなくなる

(1) 税収

- このままでは、人口減少に伴う市民税の減少や、地価低迷に伴う固定資産税の減少等が進行し、市の収入源を確保することが困難となると予測される

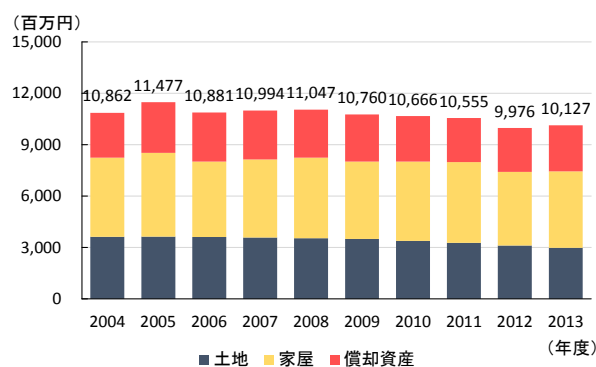
生産人口の将来推計値をもとに将来の市民税収入を推計すると、2040年度は6,401百万円となり、2010年度と比較して約36%減少する見込みとなっている。

固定資産税は、ここ数年減少傾向となっており、土地を中心とした固定資産税の減少が確認できる。



※宇部市資料、将来人口推計結果をもとに推計

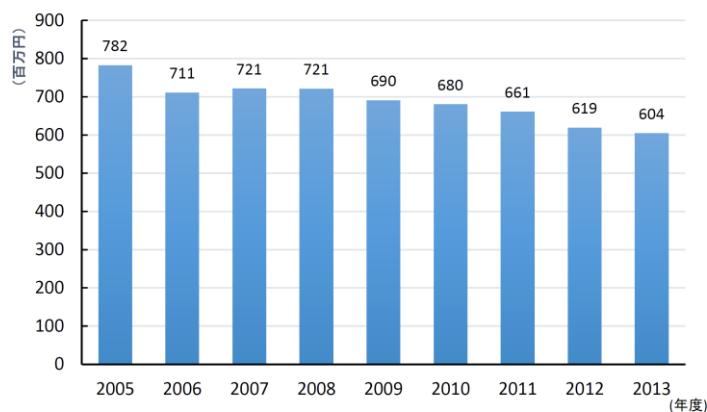
図 2-10 市民税の将来推移



出典：歳入歳出決算附属書（各年）

図 2-11 宇部市の固定資産税の推移

特に中心市街地における固定資産税の下落率が大きく、2013年度は、2005年度と比較して23%下落している。



出典：宇部市中心市街地関連基本データ

図 2-12 中心市街地の固定資産税の推移

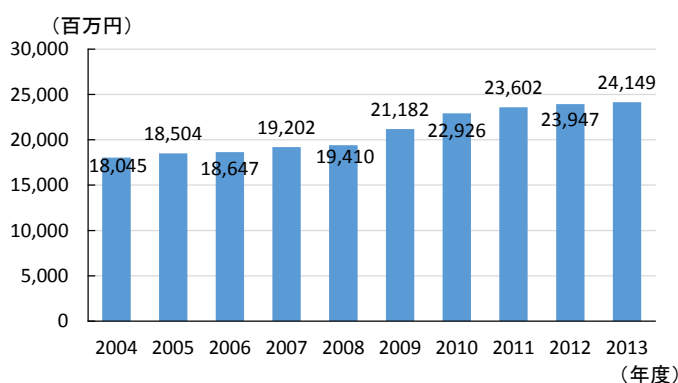
(2) 民生費、医療・保険会計

- 今後、高齢化に伴う財政支出や公共施設の維持補修費の増加により財政がひっ迫し、これまでのような公共サービスを提供することが困難となると予測される

2004 年度以降、本市の民生費は増加し続けている。

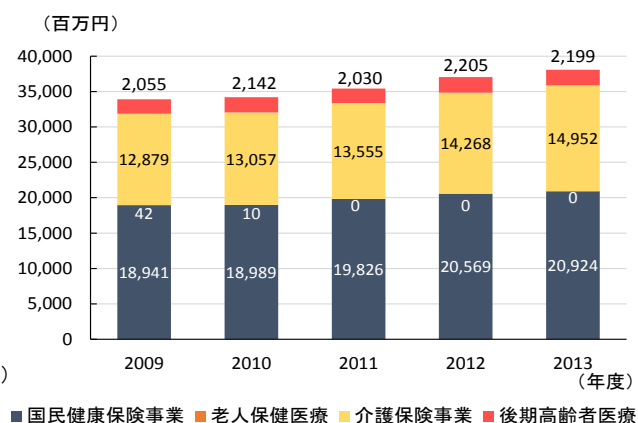
民生費には、社会福祉費、児童福祉費、生活保護費などがあり、今後の高齢化の進行などに伴い、これらの費用が増加する懸念がある。

また、本市の医療・保険の特別会計（国民健康保険事業、後期高齢者医療、介護保険事業）についても、決算規模（歳出）が増加傾向にある。



出典: 決算の概要(各年)

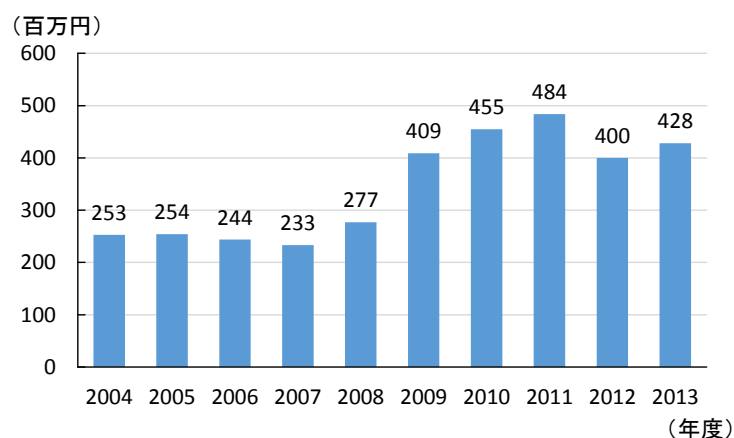
図 2-13 宇部市の民生費の推移



出典: 決算の概要(各年)

図 2-14 宇部市の医療・保険会計の決算規模(歳出)推移

普通会計における公共施設等の維持補修費は、近年大きく増加してきており、2009 年度以降は年間 4 億円以上を必要としている。これからさらに進行する施設の老朽化に伴い、より多くの維持補修費が必要となることが懸念される。



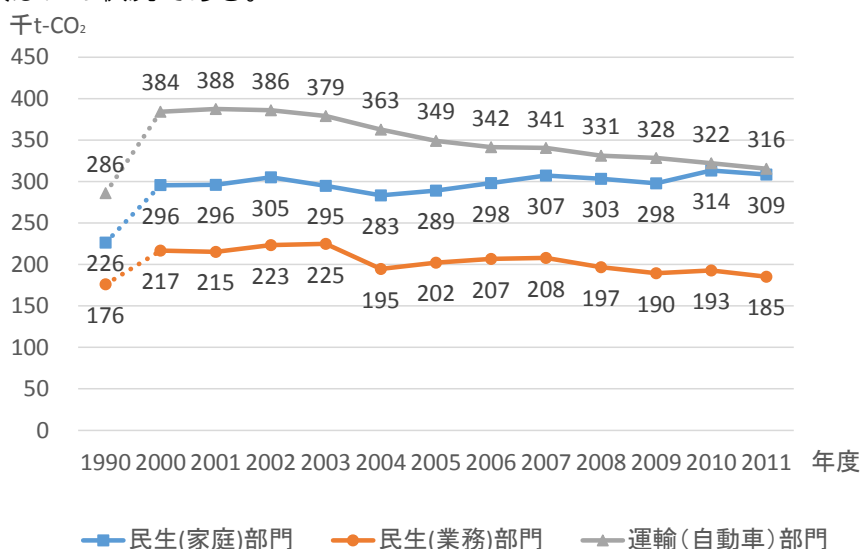
出典: 宇部市公共施設マネジメント指針

図 2-15 普通会計における公共施設等の維持補修費の推移

7) 化石燃料由来のエネルギー消費量が削減できない

- 2000 年度以降、市全体では二酸化炭素排出量(エネルギー消費量)は減少しているが、家庭、業務など都市活動に係るエネルギー消費量は横ばいとなっている

2000 年度以降、市全体では二酸化炭素排出量は減少傾向にある。都市活動に起因する二酸化炭素排出量として、運輸（自動車）部門は減少傾向にあるが、民生（家庭・業務）部門では横ばいの状況である。



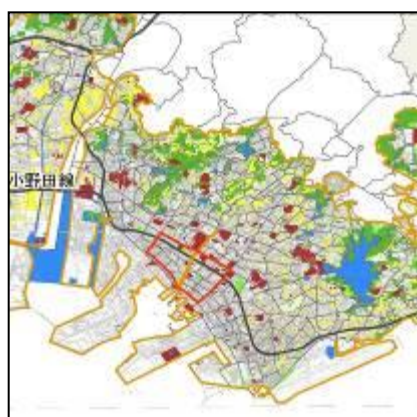
出典:「第二次宇部市環境基本計画」(2010年)

図 2-16 宇部市の二酸化炭素排出量の部門別推移

8) 中心市街地に宇部市の顔としての魅力がなくなる

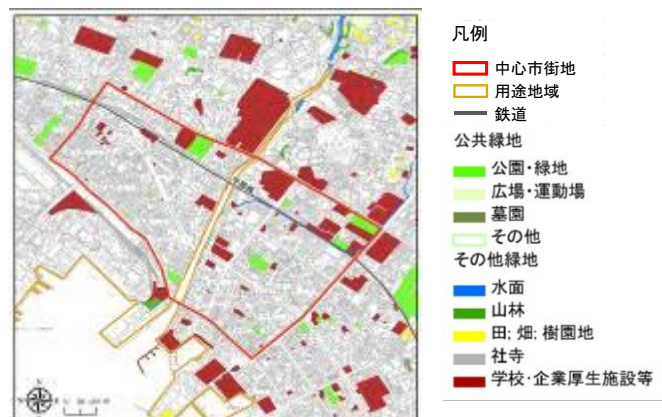
- 中心市街地は周辺部に比べ、緑や交流スペースが少ない

中心市街地内の緑地は、真締川公園、神原公園、渡辺翁記念公園などの他には少なく、特に中央町は緑地が不足しているなど、周辺部に比べ、中心市街地には緑地が少ない。



出典:「宇部市都市計画基礎調査」(2012 年)

図 2-17 現存緑地図(用途地域)



出典:「宇部市都市計画基礎調査」(2012 年)

図 2-18 現存緑地図(中心市街地)

2.2 宇部市がめざす「にぎわいエコまちづくり」

本市では、まちづくりにおいて、地球環境に優しい暮らしや少子高齢社会における暮らしなど、課題解決に向けた新しい視点を盛り込み、魅力的で利便性の高い、にぎわいのある持続可能なまちづくりを進めるために、「宇部市にぎわいエコまち計画」を策定する。

この計画では、都市拠点、地域拠点、地域コミュニティ核を結ぶ公共交通を軸とし、それぞれの拠点や地域コミュニティ核が機能を補完しあう「多極ネットワーク型コンパクトシティへの転換」、限りあるエネルギーを効率的に利用する「エネルギー利用のスマート化」、中心市街地の魅力を高める「市の顔としての中心市街地の魅力向上」をまちづくりの方向とし、住民と民間企業、大学、行政が一体となって、中心市街地の活性化と合わせた環境負荷の少ない「にぎわいエコまちづくり」をめざす。

<まちづくりの方向>

多極ネットワーク型コンパクトシティへの転換

- 1) 地域コミュニティ核として日常生活に必要なサービス機能は小学校区を基本に維持する
- 2) 拠点として利用頻度の高い場所等に広域的な都市機能を集積する
- 3) 地域コミュニティ核と拠点間を鉄道やバスなどの公共交通で結ぶ
- 4) 拠点や地域コミュニティ核の周辺、公共交通の軸沿線に居住を誘導する

エネルギー利用のスマート化

- 1) 地域のエネルギーを管理するスマートコミュニティ事業を展開する
- 2) 再生可能エネルギーの導入を推進する

市の顔としての中心市街地の魅力向上

- 1) 中心市街地のにぎわい創出を図る
- 2) 緑と花と彫刻による顔づくりを推進する

<メリット>

地域コミュニティの維持

拠点・核における生活利便性の維持・向上

サービス機能の維持

都市経営コスト増大を抑制

にぎわいの創出

不動産価値の上昇

環境負荷の低減

公共交通の維持

市民の健康維持

エネルギーの効率的な利用

再生可能エネルギーの確保

みどりの保全・創出

良好な景観創出

中心市街地の活性化

2.3 「にぎわいエコまち計画」の基本方針

まちづくりの方向に沿って、「にぎわいエコまち計画」では、将来像を「みんなでつくるにぎわいエコまち宇部」とし、下記の4つの取組について基本方針を掲げ、具体的な施策を民間投資を促しながら推進する。

将来像： みんなでつくる にぎわいエコまち宇部

取組1 都市機能の集約化

(基本方針) 多様な機能が集まった、歩いて暮らせるまちづくり

施 策

- 拠点や地域コミュニティ核への医療・福祉・商業・教育などの都市機能の誘導や、既存の日常サービス機能の維持を図る
- 利便性の高い拠点や地域コミュニティ核、公共交通軸周辺へ居住を誘導する
- 安全で快適な都市空間を創出する

取組2 公共交通の利用促進

(基本方針) 公共交通など、便利でエコな移動ができるまちづくり

施 策

- 拠点や地域コミュニティ核間の移動を支える公共交通ネットワークの確保を図る
- 公共交通の利便性の向上・利用促進により、自動車から環境負荷の少ない公共交通手段への転換を図る
- 自家用車等の次世代自動車導入などにより環境負荷の低減を図る

取組3 建築物の省エネ化、エネルギーの効率的利用

(基本方針) 地球にやさしく、賢くエネルギーを利用できるまちづくり

施 策

- 建築物への省エネ性能の高い機器や設備の導入、省エネ性能の高い建築物への建替えなどにより建築物の低炭素化を図る
- 住宅、事業所における太陽光エネルギーの活用や、公共施設への再生可能エネルギーの導入を推進する
- 地域のエネルギーを総合的に管理し、エネルギーを創り、蓄え、賢く使うスマートコミュニティ事業の展開を図る

取組4 みどりの保全・創出

(基本方針) 緑・花・彫刻など、うるおいが感じられるまちづくり

施 策

- ヒートアイランド現象の抑制や、市街地内のオープンスペースや公共施設等への緑化の推進、二酸化炭素吸収源としての緑地の保全を図る
- 市街地において、緑と花と彫刻による宇部市の顔づくりを推進する